

ORIENTEERING JAPAN

# O JAPAN

Navigation across Country

'95 / 10

1995年 [平成7年] 10月10日発行  
(毎月1回10日発行)

第12巻第10号通巻第147号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



THE CITY OF **Edmonton**

PARKS AND RECREATION



Alberta Sport Recreation Parks & Wildlife Foundation



D35B, D60A, D65, H45B, H50B, Op4, R4



ALBERTA Galleries

Canada '95		Day 2	
Course 6	4300 m	115	
START	△	∠	
1	80	∪	⊙
2	64	≡	⊙
3	184	→	
4	58	⊙	∇
5	51	∩	
6	41	∩	
7	39	↑	∇
8	35	⊗	⊙ 10x 15
9	200	∠	∠
		⊗	⊗

Safety bearing: west

[本誌掲載のため約92%に縮小]



95/10月号・No.147 目次



＝ 提言 ＝	...	4
・ 国際大会の開催を企画しよう	田口 肇	
＝ SQUAD REPORT ＝	...	5-7
・ ワールドカップ96のお知らせ		
・ WOC95を振り返る	鈴木 康史, 加賀屋博文	
＝ ベテランズ ワールドカップ '95 ＝	...	8
・ ロシア ～未知との遭遇～ [後編]	高尾 昭次	
＝ イベント リポート ＝	...	9-11
・ CANADA '95『レクリエーション-O』	田口 肇	
・ 大阪オリエンテERINGクラブ ショート-O大会		
・ 球ヶ原'95 奈良公園オリエンテERING 大会		
・ 京都カップ第1戦		
・ 奈良市民スポーツのどけい『オリエンテERING の広場』	桐田 幸宏	
＝ オリエンティアのための本棚 ＝	...	12
・ 第17回：林野庁(編)		
「林業白書(林業の動向に関する年次報告書)」		
日本林業協会	文：村越 真/カット：曾根 弥生	
＝ 全国PC愛好会のページ ＝	...	13-14
・ パーマネントコース りぼへと	富田 徹, 木佐木輝雄, 水野 博司	
＝ O-JAPANクラブ購読(登録)一覧[1] ＝	...	15-18
＝ 投稿 ＝	...	20
・ 長野県協会2日間大会に参加して	安斎 秀樹	
＝ お知らせのページ ＝	...	20
・ 「O-JAPAN」新ロゴマーク募集のお知らせ		
・ 『広告』掲載のお願い		
・ 編集部日誌		

■今月の表紙：95.9.24 大阪OLCショートO大会。予選ゴール。オリエンティアファミリー達富家の達富弘和くん(9才)。

[撮影：桐田 幸宏氏]

■今月の地図：カナダ5日間大会第1・2日目の使用地図。コースはレクリエーション-Oの最上級のもの。本文4ページ・9ページ参照。



[写真上]

大会会場にベビー・シッターの場所を設けることで、主婦層の参加増を図る。

[写真下]

われらの大々先輩：スウェーデンから招待されたベルティン・ノルデンフェルトさん。カナダ5日間大会で、ひょっこりと日本グループのチャーターしたバスを訪れ、この後O-Ringen大会に向かう井上直子さん(写真・左)のために、友人からの伝言を伝えていた。



## 国際大会の開催を企画しよう

田 口 肇

『私は楽道家だけど、妻のマーグ（常に彼の片腕として働いた）は私の分まで何でも心配するんです。しかし、もう一度やってみたい。しかもより大きなものを！私たちのクラブは決して大きくないけど、今回で多くの経験者が生まれたのだから』

以上は、今夏のカナダ5日間大会の運営責任者を務めたジーン・ブレンダ氏が、大会終了後 "Orienteering North America" の編集者、サラ・バーマンさんの問いかけに答えた言葉を、同誌の8月号から引用したものである。

大会は、7月15日から23日にかけて、カナダ、アルバータ州において行なわれた。北米有数の観光地カナディアン・ロッキーに近い地域で行なわれたこともあって、500人ほどの参加者のうち3分の1が北米以外の国から、しかもヨーロッパでもブルガリアやルーマニアといった国の人たちも混じり、まさに「国際大会」として色どりを添えた。そして、われわれ日本人の参加も、ほとんどが50才以上のヴェテラン勢が占めたとはいえ、5%近い割合の20人を越え、主催者から歓迎された。

ヴェニュー（開催地）は、5日間大会の前半をエドモントン市から車で1時間半ほど北東に走ったところにある「スモークレーク」の町（私に言わせれば「村」）、中1日をカルガリー市のほぼ中間にあるビッグバレー村（この地域一帯を「バッドランド」と呼んでいる）で、更に後半の2日間を、あのカナディアン・ロッキーの南からの入り口に近いシーベ村付近で行なった。このシーベはカルガリー市から車で40分ほどのところにあり、10年前の85年にカナダ・トロント市近郊でマスターズ・ゲームが行なわれた時、その関連イベントとして0大会を開いたところである。したがって、今回、主催者のお薦めのトレインは、意外にも前者のスモークレークであったのである。エドモントン近郊とカルガリー近郊の二つのトレイン・サンプルの地図は本誌 95/2 に載せたが、魅力を感じるのは、どう見てもカルガリー近郊の方である。「意外にも」と書いたのは、この事前にPRのために送られてきた地図とは逆に、「まあ、時差ほげと体調を整えるための準備期間として適当」と見ていた前半が、0Lを堪能できるトレインであったことである（本号「今月の地図」参照）。西北部はやや緑がかった湿地

（ほとんど濁っている）が多いが、短いわれわれのコースは中央部が主で、ほとんどが起伏のない白の林であった。1991年にエドモントンのクラブがここを発見し、その時、今回のマップであるブライアン・チャブ氏（カルガリーのキティ・ジョーンズとともにアルバータ州の代表的オリエンティア）は、「すばらしい。単なるカナダ選手権を開催するだけではもったいない。国際大会を開催すべきだ」。そして翌年に早速、基礎図の図化をノルウェーのオラフ・ヘルゲセン氏に依頼し、この大会を企画。昨年1年かけて調査し、今春O-CAD5（O-MAP作図ソフト）による作図が行なわれた。調査はブライアン・チャブが2年間ほどでシーベのトレインも含めて行なった。大会運営スタッフは、1日当たりせいぜい50名足らず。参加をしながらの運営者も何人かいるのである。確かにいくつかの運営ミスは目につくし、実際にわれわれのチームにも致命的にその影響を被ってしまった人がいたが、しかし、われわれ日本の経験豊かな（0Lにも、そして「運営」だけ取り上げて）オリエンティアならば、600～700人程度の参加者を50人程度で捌くことは可能であると見ている。数百人程度としたことは、単日の見積もりで、リレーやショート0を3日間大会に加えて5日ほどの複数日大会にすれば、それなりの参加料収入は期待できるし、参加者/運営者の人数規模を少なくすれば、宿泊場所の確保がいくらかでも容易になり、運営側の宿泊・交通費を軽減することができるからである。カナダ5日間大会の参加料収入は、その参加人数から考えて約300万円ぐらいだろうか。スポンサー収入など合わせて約500万円ぐらいの予算で5日間+トレーニングやショート0を含めた複数日大会を運営したのである。もちろん、ジーン・ブレンダ氏をはじめ、マップ、コースプランナー、各セクションチーフなどの大いなる無償奉仕があり、特に、エントリー手続きをはじめ事務的な仕事を切り回したマリリン・エドモンドさんの苦勞は大変なものであったし、大会を成功に導いた功労者のひとりでもあった。5日間を終えた最後のバンケット（木馬ロデオとチャリティ・オークションとステーキ・パーティ）では、ジーンもマリリンも他の運営者たちも、かなりのやつれを見せながら、しかし感激ひとしおの表情であった。

## I OF主催大会の予定

- ◇ジュニア世界選手権  
1999年度ジュニア世界選手権大会はブルガリアに決定。
- ◇ヴェテランズ・ワールドカップ  
1998年度ヴェテランズ・ワールドカップはチェコ共和国のノヴィボルで、1999年度はデンマークのエトランド地方のオールフスでの開催が決まった。
- ◇1998年度ワールドカップ  
第1ラウンドの開催国がイギリスとアイルランド、第2ラウンドがポーランドとスロヴァキア、第3ラウンドがエストニアとフィンランドにそれぞれ割り当てられた。なお、第4ラウンドとしてスウェーデンのオーリンゲン大会に含める（5日間トータルを1大会として扱う）ことができるかどうかの検討がスウェーデン連盟において行なわれる予定である。
- ◇スキー0大会  
1997年のワールドカップはスウェーデン、チェコ、オーストリアおよびロシアに決まった。1998年のスキー0ジュニア世界選手権はロシアにおいて行なわれる。

上記は、新たに決定した1997年以降のI OF主催大会（来年度分は本誌カレンダー=Overseasに◇印を付してある）であり、"ORIENTEERING WORLD"誌の最新号に載せられているものである。東欧の小国（経済的に日本から比べれば）が次々とワールドカップやVWCの開催招致に積極的であるのに引き換え、日本で今わずかに計画されているのが、先月号の元木悟氏の文や新聞切り抜きにあるように、長野五輪時に計画されている大会だけである。この大会にも近隣県が手をあげて複数日大会として欲しいし、その後も、たとえばVWCやワールドカップの開催立候補があって然るべきである。

JOAの理事・専門委員の方々にもその大いなるロマンを求める意欲がないならば、特に、公認指導員の皆様、タコのできる程の大会参加（海外も含めて）を半分に減らし、自分のクラブは後進に任せ、メディアにアピールするようなビッグ大会の開催に向け、日本中のオリエンティアの力を結集することを考えて見ませんか。普及・発展は自らの手で。



# SQUAD REPORT

WOC SQUAD JAPAN は強化選手をサポートしています

SQUAD広報担当 桐田幸宏

## ワールドカップ96のお知らせ

世界選手権大会 (WOC) のない96年度は、ワールドカップが開催される年度である。来年度の全日程は右のとおり (SQUAD BULLETIN 6月号より)。代表選手は、本年度のエリートポイント結果などを参考にSQUADにより選考される予定である。詳細については随時アナウンスがあるであろう。

96.5.07	No.1 (クラシック)	Nida	Lithuania
96.5.10	No.2 (クラシック)	Cesis	Latvia
96.5.11	No.3 (リレー)	Cesis	Latvia
96.7.30	No.4 (ショート)	Gothenburg	Sweden
96.8.03	No.5 (クラシック)	Oslo	Norway
96.8.04	No.6 (リレー)	Oslo	Norway
96.8.21	No.7 (ショート)	Emmental	Switzerland
96.8.22	No.8 (リレー)	Emmental	Switzerland
96.8.24	No.9 (クラシック)		France

## WOC95を振りかえる

WOC95の結果は先月号でご報告したとおりである。今月号からは各選手の実際のレースの様子などについて、ルート図とともに報告してもらおうと思っている。遠征を終えたその後の想いなども交えて、しばらく連載していきたいと思っている。

今月号では、男子リレーで1走を務めた加賀屋選手に大会を振り返ってもらった。加賀屋選手は今回が初の代表選手。昨年度から村越・鹿島田選手に次ぐ日本のエース級として注目を集め、全日本などでも選手権を争うメンバーとして期待がかかっていた。今回の遠征では見事にもその大役をはたして帰還している。今後のさらなる活躍が楽しみである。

加えて、先月号の各選手のコメントの中で原稿が間に合わずに紹介できなかった、鈴木選手のコメントを掲載する。

### 鈴木康史

今回の遠征にあたり、多くの方から過分の応援、援助を頂きました。本来ならそれぞれきちんと成績を報告し、お礼を申し上げねばならないところです。しかし、今回は、主観的にも客観的にも、胸を張って報告できる結果を出すことができませんでした。今回の無念を晴らすため、また2年間頑張ろうと思っています。今度は胸を張って結果が報告できねばなりません。世界選手権で無理したせいか、足の怪我は長引きそうです。ちょうどいい機会なので、今年の秋のシーズンは一休みして、来年度から新しいスタートを切ろうと思っています。

どうも有難うございました。次回にご期待ください。



## WOC95地図と報告書・販売のお知らせ

WOC95の地図と報告書を販売しています。是非是非、ご購入をご検討ください。

販売品	報告書	500円	
地図	クラシカル決勝ルート図	1500円	
	クラシカル決勝コース図・男子	1000円	
	クラシカル決勝コース図・女子	1000円	
	クラシカル予選・男子	700円	
	クラシカル予選・女子	700円	
	ショート決勝・男子	700円	
	ショート決勝・女子	700円	
	ショート予選全ポスト図	700円	
	リレー全ポスト図	700円	

### 申込方法

郵便振替 口座番号 00160-2-651396  
 口座名 WOC SQUAD JAPAN  
 ・希望するものを明記のこと

### 問い合わせ先

稲葉英雄 0564-55-5602

いよいよ自分が日本代表としてリレーを走るという目標が現実となる。4走予定のはずが、1走へ。とまどいもあったが、逆に気楽になったというのが正直なところ。

準備を終えて、スタート枠に入る。スタート直前の2分間は妙な幸福感に包まれていた。程よい緊張と周りの静けさ。横には各国のトップランナーがずらりと並ぶ。彼等と本当に一緒にレースができるんだ。走り出してしまえばそんなことを思う暇なんてない。このまま時間が止まって欲しい、そんな妙な気持ちになっていた。

スタート。あせらず最後に、と思う間もなく最後尾の位置になる。スタートフラッグから直進で1ポを目指す。集団は前方にばらけていて、誰がどこ向かっているのかさっぱり分らない。一つ隣接を見てから、自分のコントロールへ。上から降りてきたGBと同時。チェックしてから、上へ登る。2ポへは道を走って、オープンな角からアタック。少々ずれたが、難無くチェック。回りにはまだランナーがいて、そんなに遅れていないと感じる。2-3は同じ方向をフランス、デンマークが先行していたので彼等を利用してペースを上げる。3ポのアタックで一人になり、ついに取り残されたかと思いつつアタックすると思いがけず横からフィンランドが出現。同時にチェックすると、彼はまた自分と違う方向へ走っていった。3-4はショートレグ。直進をしていると、横から7、8カ国の集団が自分と同じ方向に向かっているのが見える。ほぼ同時に4ポをチェック。スウェーデン、ノルウェー、チェコを確認する。チェック後の動作の遅い自分は集団に取り残されるが、きっちり情報を拾って5ポへ向かう。ばらけた集団が自分のアタックする方向に収束してゆく。集団に追い付いて5ポをチェック。6ポへ向かうときにはさすがにこのままいけたら・・・と思った。だが、今の自分の体力ではそこが限界、急に息が切れはじめてそれまでのペースを保てなくなる。集団も競いあってペースを上げているようだ。徐々に離れてゆく集団を口惜しく眺めながら、これから本当の勝負と思いついて、走り続ける。

しかし、6ポへアタックする瞬間、先程の集団が思いがけず目の前を走っている。何だ、そんなに遅れていないじゃん、と今思えばあせっていた。集団は6ポをチェックした直後で7ポへ向かっていたのに、その動きにつられて自分のプランを忘れてしまう。すぐに気がついて元に戻って6ポをチェックするが、頭は完全に集団を追っていた。7ポは200m程度の直進。だが、特徴物である藪がまったく判別できず、絶対この付近なの

かと思いついてフラッグを探して走りまわる。どうしても見つけれず、6ポが見える位置まで戻ってアタックをしなおす。なんとか7ポをチェックするが、やはりさっき自分が探し回っていた位置に違いがなかった。なぜさっき見つけれなかったのか、非常ないらだちを感じる。ここで4分はロスしただろう。自分が探し回っているあいだに幾つかの国が通りすぎていった。これからは完全に一人旅、後半は前半のハイペースの反動か、身体が重く息も切れる。集中力を失いそうになるが、自分が少々遅れたって、後ろに控えているのが、入江、村越、鹿島田なのだから大丈夫。そう思い直して淡々と走り続ける。コントロールはたいして難しくなく、確実に10ポまでをクリアする。10-11は2km余りの道走り。とても長く感じられた。11ポのアタックでスロバキアに追い付く。11ポ以降はゴールまで急斜面で藪のなかのショートレグが続く。登りが辛い。12ポへ気合いをいれて登ってゆく。そこへ会場の歓声が聞こえる(12ポは会場から200mぐらいしか離れていない)。今頃1走のトップがゴールしているのかな、と思いつつもあせらないように自分に言い聞かせる。13ポへのルートチョイスでスロバキアを出し抜き、14ポも直進でうまくチェック。15ポは60m一気登り、ここさえクリアすれば、ゴールが見える。しかし、ここで弱気になったのか、なるべく道を使おうと斜面を迂回する。それがいけなかった。確かに道には乗ったのだが、それは意図したものとは異なる道で、斜面を下ってゆく。すぐに気がついて、リロケトはできたが、そこからは非常に藪い斜面を登らねばならない。疲れ果てて15ポへついたら、それまで一度も姿を見なかったアメリカがいて非常にショックを

受ける。ラス前の16ポへは、コントラリングで進む。手前の女子のコントロールに引っかかり、自分の意図した沢にはコントロールがなく、通りすぎてラスポの近くまで来てしまう。アメリカは遙かかたへ消えていった。スロバキアも迷っている。会場を目前にもう一度立ち止まって地図を読む。分かった。コントロールのある沢は尾根を下って行って、藪のなかに突っ込まなければ地形が現れない。上から覗き込んでいては見えないはずがない。思いきって尾根を下ると、はたして藪の中からコントロールが出現した。最後の最後でのミスの連発は残念だが、集中力が足りなかったのだから仕方ない。登りかえしてラスポへ。体が非常に苦しい。道へ出てまもなく視界が開ける。日本人応援団の声援を受けながら、ラスポをチェックする。とても笑ってゴールできる心境ではなかったが、スタート前、大西真理子と「わらってゴール」と約束していたのを思い出して、笑いながら入江にタッチする。これで終わったという安堵感よりも、悔しくて、2年後のノルウェーも絶対1走を走ってやる！という気持ちになっていた。

結局、トップと15分差、35カ国中の25位。ミスも多く、目標(トップと10分差)も達成できなかったの、決して誉められるレースではない。しかし、前半上位国のランナーと競いあって走れたという経験は、自分にとって貴重な財産だ。鹿島田いわく、「リレーを走る1時間は2年間の努力も全く惜しくない最高の瞬間」。今回の自分の準備は実質10か月でしかなかった。だから、10か月分(前半)しか楽しめなかったのだろう。そう考えると、今後2年間頑張れば、どんなレースが経験できるのか、楽しみである。



WOC95 リレー (95.8.20)  
加賀屋選手のルート図





## ベテランズ ワールド カップ '95 【後編】 ロシア～未知との遭遇～

高尾 昭次

### テクニカルな興奮

いよいよ予選1日目。猛暑とはいえ気持ちのよい青空で、北欧の真夏といった感じである。ただ、水がなく、スタート前のドリンクサービスはスプライトのペプシコーラ。なまめろい炭酸を、走る前にどうやって飲めというのだろう。どの大会でも見られるスタート風景だが、かつてのエリート達は年と共にスピードが衰えているのがさびしい。バケツに入れられたマップをもぎ取り去り、ベテランズのチャンプをめざして森の中へ次々と消えていく。

私の前後のランナーがロシア選手とあって、どんな走りをするのか興味があつた。「ビッグレースの1番コントロールは歩いてでもさがせ」というほどミスが多い。鉄則どおりゆっくりアタックしてクリア。だんだんレースにスピードが増してきた。おもしろい。このコンター読みの緊張感がたまらない。日本ではなかなか味わえないスリルである。ふと見ると、前に行くロシア選手に追いついてしまった。なんだよ、こんなテレテレペースで走ってんのか！そう思った一瞬のことであった。小さなバラレルエラーをおかし5～6分のミス。やってしまった。走力も落ちたけど、技術も集中力も落ちたもんだ。ベテランズとはいえ、ベストレースを心掛けなければ、せつかくのチャンスを生かしきれない。なんと一日目はもうひとつボカをやり50位。なにしろH35のトップは5分48秒/kmで走っているのだから、世界のオッサン達は速いのだ！楽しむためには、充分なトレーニングを積んで、目標とおりのレースができることです。

齡はとっても高いレベルを求めたいものです。

予選2日目は、予想どおり難易度が低くなり、距離も短い。もちろん、トレインに慣れたせいもあって、どのランナーもスピードアップしている。だから必死になったつもりでも順位はあまりかわらない。マーシュ（湿地）と凹地と第二次世界大戦の塹壕（さんごう）を巧みに走りながらも、ちょっとした藪の中のコントロールに惑わされてしまう。どこを走っても一面のブルーベリーが未熟な実をつけ、芝生のように広がっている。実が熟したらこの森はどんな香りがするのだろう

か。走り去った後にできたジャムは誰か食べるのかなあ…

結局、Aファイナルへ進んだのはH55の尾上俊雄氏ただ一人ではあったものの大健闘であった。その他の選手は、レース後のどのの渴きと久々のえさにありついた吸血鬼、モスキート軍団との戦いであった。

### 美・食は奥が深い

中一日の休息日は、世界に誇るエルミタージュ美術館などを見学。レオナルド・ダ・ビンチ、ラファエロ、ミケランジェロ、セザンヌ、ゴーガン、ピカソ、…。日本で行なう美術展の30年分を一日で見ってしまうようで、あまりにも贅沢な観光である。レストランでの食事も20～30\$ということで、ここロシアの現在の2～3ヶ月分の給料をペロリと食べてしまう日本人は、超バケモノに見えたに違いない。

それよりか、私たちはロシア選手たちのキャンプ地に招待され、素朴な家庭料理をごちそうになったほうが、とてもおいしかった。「キシェル」といって、乾燥させた果物を煮詰めてスープにし、中

にブルスニーカという葉っぱをちぎって入れただけのものだった。それにパンをつまみながら食べるだけの食事だが、とても素敵だ。「チャイ」といえば紅茶、「コーフェ」といえばコーヒー。ロシア語もなじみやすいものになってくる。また、寺尾夫妻は別の家庭に招かれて、ウオッカをごちそうになったそうなの…。

### ファイナリストへの挑戦

いよいよファイナル。残念ながらBファイナルとなり、あとはベストを尽くすのみ。ちょっとさびしいものはあるが、スピードにも慣れ、体調はロシアへ来てからいちばん好調な朝を迎える。全身に群がる飢えたロシアの蚊を追いかけて、湿地の多いトレインヘスタート。マーシュを利用して走るオリエンテーリングなら北欧でよく走ったものだ。

一日の休息がベテランズにはこんなにも有効なのか。あまりにも足が軽く、スピード感が狂い、第1コントロールへバラレルエラーをしたまま2倍以上の距離を走ってしまった。「1番は歩いてでもさがせ」の鉄則はどこへ…。やっと見つけたコントロールで取材に来てたカメラマンに現在の位置を聞く（これは他の人に内緒にしておいたのに…）。まさかの10分ロス。あとは何のことはない。千葉の松林と八ヶ岳付近の山を走っているようなもので、Bファイナルだからさらに悲しくなってしまう。湿地のヤブもトゲトゲで痛いなんのって。途中で3人に場所を聞かれるとは、よっぽどテレテレ走っていたのかもしれない。B・17位では…。

そんなわけで、今後に課題を残したベテランズ。再び挑戦したくなる気持ちは押さえられない。できればスカンジナビア地形が好きだが、チャンスがあればまた出場したい。90才過ぎれば世界チャンピオンも夢ではない。

ただ参加できればいいとか、観光というだけでは海外に行ってもつまらない。やるからにはやはり高いレベルで戦ってみたい。たとえ、私がおじさんになっても…。

これからやがておじさん・おばさんにこれエリートのみなさん。Uncles, be ambitious!



OLP兵庫・尾上 俊雄さん



## CANADA '95

## ～5日間大会に併設されたレクリエーション0～

田口 肇

4ページの「提言=国際大会の開催を企画しよう」に続けて、ここではイベント・フォトリポートのかたちでカナダ5日間大会にもう少しスペースをいただきたい。

この大会には、「レクリエーション0」なるコースが設けられ、スタート前の申込みと終了後の報告を確実にこなすことを義務づけている以外は、比較的フリーに、そのトレイルを歩いて風光を楽しんだり、0-テクニックを習得したり（初心者はそれなりに、中・上級者は本格的なトレーニングとして）、ファミリーがハイキングを行なうような感覚で歩いたり、いろいろな目的をもって参加できるようになっていた。

この大会では特にクラブ仲間や家族への、「初心者指導」の場として利用されているようだった。写真①は、元カナダ選手権者のテッド・ド・サンクロア（8月号表紙写真の人が彼の父君）がクラブ仲間の女性にレクリエーション0のスタート前に、指導を行なっているところである。このように、競技が終了したオリエンティアの時間が許せば、結構難解なコースに挑

戦する後輩の相談にのったり、一緒に走ることもできるのである。

地図Ⅰは、大会4日目（5日間大会3日目）のもの。氷河の浸食でできた土崖が多く、またほとんどオープンなテラインである。この辺り一帯を文字通り"Badland"という。写真②（ほぼ南向きに撮影）と③（ほぼ西向きに撮影）である。コントロールNo.はみなさんで。このコースはR3で、レベルとしてはBクラス。

地図Ⅱは、5日間大会最終日のR1コース。最もやさしいコース。そして「今月の地図」(P2・P19)のコースはR4のかなり本格的なコース。これでも、位置説明表からお分かりのように、D65とも併用なのである（D65には難コースと思える）。

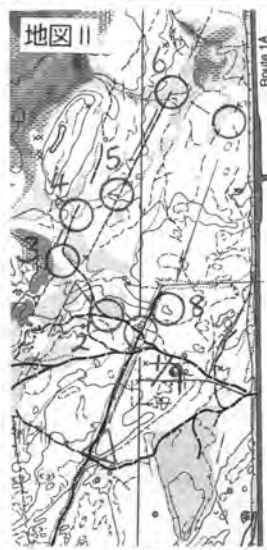
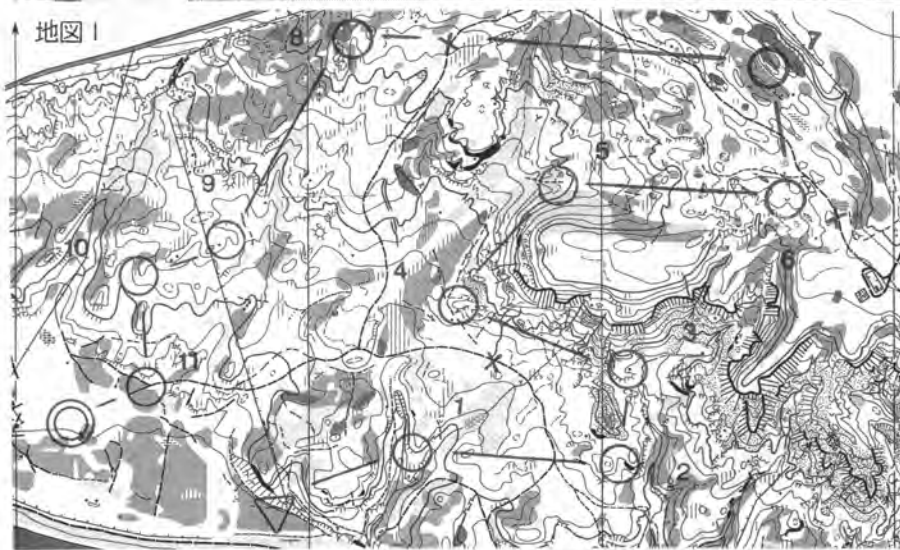
いずれにしても、いくつかのコースを用意して=この大会では全日程とも4コース、時間を競わずに（スタートとゴールでは計時してくれるので、自分との競走はできる）、参加者それぞれに応じた楽しみ方ができるのである。



写真②



写真③



# いべんと りぽーと

SQUAD REPORTがO-JAPANの紙面の多くを割くようになってしまっ  
私としても心苦しく思っております。私もイベントリポーターでいきます。  
全国の読者の皆様も、どうぞイベントリポーターになってくださいませ。  
O-JAPANは自由投稿の機関誌です。私は専属記者ではありません。

桐田幸宏

## 大阪オリエンテーリングクラブ ショート=O大会

## 95.9.23 『長者屋敷越』

主催：大阪オリエンテーリングクラブ

大阪OLCが突然の思いつきのように開いた大会。事前の大会PRも充分でなく（O-JAPANの8月号発行が遅れ、あげくに要項が閉じ込められなかったことも一因）、事前エントリーは71名という寂しい結果に終わった。

開催の経緯について辻村進会長に聞いた。「関西はまだ、あまりショートOLの認知が充分でない。ショートOLのおもしろさとか、日本が唯一世界に通用する可能性のある種目でもあるし、その普及がまず一つ。それから、内部の話として、20周年の調査をした面々から、もう1回我々の手で大会をやりたいという声があった（注：大阪OLCは本テレンにてこの5月に20周年記念を兼ねた公認大会を開いている）。会場の位置が変わったんで、コースも別のとり方ができまし、我々の開拓したテレンを楽しんでもらいたかった。宣伝が充分行き渡らなかったの、その辺が残念だった」。

前日の9月22日は、台風14号が接近。100%近い雨が予想された。参加者の足が鈍って絶望的な競技人数になるのではと心配もされたが、当日は信じられない晴天。台風一過の暑い一日となった。参加者の皆さんは、午前の予選、午後の決勝をそれぞれ楽しんだ。女子決勝は、激しいヤブの待ち受ける泥試合。60分の制限時間をかろうじてクリアするのが精一杯だったようだ。



### 成績 MA-Aファイナル

1	砂田達之	OLP兵庫	30:42
2	滝沢元和	紅萌会	31:57
3	尾上俊雄	OLP兵庫	36:05

### WA-Aファイナル

1	芦田由美子	OLCふるはうす	57:42
2	奥田裕子	紅萌会	59:50
3	井上洋子	奈良女子大OLC	失格(60分超過)

## スポレクなら95 奈良公園オリエンテーリング大会

## 95.10.1 『奈良公園』

主催：奈良県オリエンテーリング協会

今年で8回目を迎える全国スポーツ・レクリエーション祭。95年度は奈良県での開催となった（主催：文部省・奈良県・（財）日本体育協会・（財）日本レクリエーション協会・（社）全国体育指導委員連合）。

奈良OL協会事務局長の当麻さんに、いろいろとお話を伺った。このスポレク、Newスポーツと生涯スポーツという意味合いが強いらしい。ゲートボール・女子ソフトボール・ターゲットバードゴルフ・ソフトテニス・インディアカなど15の正式種目がある。オリエンテーリングも何回目かまでは正式種目だったようだ。



競技場に大きく掲げられた大仏様幕がかわいかった

開催県によって種目が選定される。千葉県での開催以来OLが抜けているようだ。奈良県も正式種目に入れなかった。しかしオリエンテーリングをみんなに親しんでもらうためというJOAの意向もあって、協賛競技の形で本大会が開催される運びとなった。運営は、奈良県OL協会・奈良OLC・奈良市役所OLC・奈良女子大OLCのみなさん。

当日はお昼前から雨が降りだし、びしょびしょOL。春日大社を横目に奈良公園内を駆け巡った。参加者数は個人が145名、グループが47組。普及行事としてはまずまずの盛況さだったと思う。

来年度は11月初旬、群馬県にて開催される。オリエンテーリングも正式種目に入っているようだ。

### 成績 MA 6.6km

1	古沢ヒロシ	つるまいOLC	1:03:11
2	中井豊	立命館大OLA	1:04:32
3	小八重善裕	鈴鹿市	1:04:43

### WA 5.6km

1	古沢久美	つるまいOLC	1:15:07
2	井上洋子	奈良女子大OLC	1:18:18
3	古沢裕子	つるまいOLC	1:22:31

## 京都カップ第1戦

歴史の古い京都カップ。今年も3戦が行われる。年間通算成績は、年齢差によるハンディキャップを所要時間に補正して（年齢別に補正率を乗じる）、その上での順位にポイントを与え、3戦中得点の高い2回分を合計して争われる。運営は京都のクラブが持ち回り。第2戦以降の予定は次のとおり。

・第2戦 95.11.19 「七福思案処」 主管：京都OLC

・第3戦 95.12.17 「華頂山・將軍塚」 主管：みやこOLC

第1戦は、かつて羽柴秀吉が明智光秀を討った山崎の合戦で有名な天王山で開催された。事前エントリー193人と6組。当日参加者も多く、地図がピンチになっていたようだった。学生さんも試験が終わって、秋のシーズンの本格的な第1戦。成績上位に顔を連ねていた。

運営をした朱雀オリエンテーリングクラブは、関西では新鋭のよく働いて下さるクラブ。来年1月のウエスタンカップリレーも主管、噂によると来年度奈良インカレの中核でもあるようだ。頑張ってください。

## 95.10.8 『天王山』

主催：京都府オリエンテーリング協会  
主管：朱雀オリエンテーリングクラブ

### 成績

#### MA

1	柳瀬陽一	京大OLC	0:53:03
2	和城賢典	京大OLC	0:55:17
3	坂本正憲	阪大OLC	0:57:09

#### WA 4100m ↑200m

1	阿部由紀子	大阪OLC	0:50:33
2	中村夕里子	奈良女子大OLC	0:57:37
3	金沢麻衣	京都橘女子大OLC	1:01:27



MA表彰式。左から坂本さん・和城さん・柳瀬さん



WA表彰式。左から阿部さん・中村さん・金沢さん

## 第28回 奈良市民スポーツのつどい 「オリエンテーリングの広場」

## 95.10.10 『平城宮跡』

奈良市民スポーツの集いは今年が28回目。10月のスポーツ月間の一貫として開催されている。オリエンテーリングは16回目。何かと普及イベントの多い奈良だが、キーマンの一人が奈良市野外活動協会事務局長（兼・奈良県OL協会理事）の山本和男氏（写真右）。野外活動協会（奈良市内での野外活動の普及を目的に昭和58年に設立された）でバリバリ活躍をされている。このイベントは、奈良県OL協会・奈良OLC・奈良市役所OLC・奈良女子大OLCの協力を得て運営されていた。

競技形式は毎回変わるらしいが、今回はスコアOL。上級クラスでは地図の半分が真っ白。ポスト円だけのコンパスOLも加味されていた（実際に走ると障害物が多くてコンパス直進はできなかったが・・）。競技会場となった平城宮跡は広大な芝生の平原。晴天にも恵まれた。1200年の歴史の上にはさわやかな汗が流れていた。



競技説明をする野外活動協会の山本さん

### 成績

#### A1 (スコア+コンパス)

1	谷村正樹	485 <sup>+</sup> イント	36:23
2	森岡裕起	485 <sup>+</sup> イント	36:24
3	平川康夫	485 <sup>+</sup> イント	36:29

#### A2 (スコア)

1	長井達也	485 <sup>+</sup> イント	42:39
2	山崎友香里	470 <sup>+</sup> イント	59:37
3	馬場元昭	425 <sup>+</sup> イント	48:57

cf. 485<sup>+</sup>イントが満点です





# オリエンティアのための本棚

文：村越 真/カット：曾根弥生

## 第17回：林野庁（編）

### 「林業白書（林業の動向に関する年次報告書）」日本林業協会

その劣悪な「就労条件」に対して社会的改革運動が起きないのは、人類の文化史上最大の謎である。24時間勤務、年中無休、社会問題になっている看護婦よりもはるかにきつい。有史以前から綿々とこの育児という仕事がおこなわれていることに改めて感嘆する。育てた子が、親の思い通りに成長する訳ではない。物心つけば、次第に親の思惑とは別の道を歩いていくのだろう。その投資回収率の低さたるや、ため息がでるばかりである。わが家の怜や綾もそうして成長していくのだろうか。

その怜だが、実はわが家唯一の資産家である。上越国境に数haとささやかではあるが山をもっている。しかも別荘地つきだ。林野庁がその植林地を育て、50年後にその収穫を折半するのである。それに申し込んだ父親も私ももうこの世にはいない。怜名義になっているのはそのためなのである。子供の時分から持っている山が利益を生むのが50年後、林業も子育てに劣らず割に合わない仕事と言えるかもしれない。

収穫はだいたい60年後、10年間にいたるまでは暑い夏の下刈、つる切りと除伐が、10年をすぎると作業は減るものの、40年齢までの間に枝打ちや間伐がほぼ3回づつおこなわれる。前にも触れたことがあるが富士地区の森も戦後の植林で、50年近くが経過しており、主伐期に入っている。およそ30年間のトレイン・クローズとなる日も近いのである。オリエンティアにとっては悲しむべきことだが、林業農家にとっては、50年間の苦労がようやく報われる日が来るのである。

こうした林業の仕組みや実態について、簡潔でわかりやすくまとめているのが、この林業白書である。遅くてとっ

つきにくい印象のある白書だが、そんなことはない。最近の色つきのグラフやカラーの写真なども使い、読んでもらうための工夫もしてある。数年前大雪で折れたり倒れたりした木が多くて可能性が著しく低下したトレインがあったが、そういうトレインは、間伐が適切に実施されていない、管理が不十分な森林なのだというようなこともわかる。

この本によれば、我々が普段接するような地域の（つまりは山奥や国立公園の自然という意味ではなく）日本の森

林の課題は保護ではなくて、その維持管理の担い手を如何に確保するかである。とにかく林業は短期的に割があわず、労多くして、手短に収穫の獲られない仕事なのである。人々が山を離れ、林業を諦めれば、必然的に森林の維持管理の程度は下がる。繰り返しになるが富士地区のスーパーAの状態は植林地にとって、決して望ましい状況ではないのである。

これに対して林業白書は「今日の厳しい状況の元では、森林管理を直接担っている林業関係者のみの力で推進することは困難であり、・・・都市住民等の幅広い支援が不可欠となっている」と指摘している。そしてその具体的施策として体験林業や分収林制度を指摘している。この分収林制度というのが、いわゆる緑のオーナー制度、怜の持っている土地なのである。

我々が週末にでかける林野も、日常的にはこういう問題を抱え、それに対してなんらかの努力をしているのである。なんとか予算を使わずに国土の管理をしようという意図があるのかもしれないし、森を利用させてもらっているオリエンティアとしては、積極的に森にかかわる気運が生まれつつあることを喜んでいいのかもしれない。本誌でもときどき紹介されているが、トレインを利用したつながりで、オリエンタリングクラブが森林作業を手伝ったといった関係が当たり前のことになるといいと思う。

（今回より、卒業した早川さんに代わって静岡大学2年生の曾根さんがカットを担当してくれることになりました）



## パ = マネントコース



りぼ〜と

□1995年6月1日(木)  
東京都 ~富田 95-15~  
「奥高尾」

[距離] 12 km  
[ポスト数] 10本 PC 0-Map

京王帝都電鉄「高尾山口」駅前にNo.8表高尾, No.9南高尾, No.10奥高尾の3コースのMM(マスターマップ)が鮮明に揭示されている。マップは1993年9月作成で3コースをカバーする。駅売店(無休, 8時開店)とケーブル駅前の「紅葉屋」にある。「奥高尾」コースはケーブル山上駅がスタートだが、ここにMMはない。①②と急降するが、意外と大変である。②は三叉路の手前の草むらの中にある。ここから③④と単調で苦しい登りがつづく。前のマップ(1984年4月調査)には④と⑤の間に小径が記載されていてそこを利用したが、新しいマップには記載がない。迷ったが夏草がひどく結局自動車道を回った。⑤は「城山」(標高670.6m)にある。⑦から⑧へは2通り考えられるが3号路へいったん上った。⑨へ下ると右手の道は立入り禁止になっていた。このコースはPCとしては標高差がきつく時間がかった。水飲み場とトイレは所要所にある。以前と比べるとポスト位置は変わらないがポストマークが変わったものがあった。また、以前設置したポストはそのままになっているから要注意。週日だったため入出が少なく助かった。

(東京都OL協会

☎0423-24-0538=19:00-21:00)

□1995年6月11日(日)  
福島県 ~富田 95-16~  
「天神山甲  
スポーツ公園」

[距離] 11 km  
[ポスト数] 10本 PC 0-Map

大高竜亮氏からポスト記入済みのマップとレポートをいただいていたので行ってみた。JR常磐線「竜川」駅下車。駅前にスーパーはあるが飲食店はない。⑨から始めて⑧で終わるコースをとることとした。平成5年9月調査のコースなのでポストはすべて新しい。公園内の「サイクリングターミナル」(☎0240-25-3113)前にMM掲示板があり明瞭だが、

マップは「榊葉町公民館」(月~金9時から17時まで)にあるという案内があった。①は広い駐車場の北隅にある。⑧は榊葉町公民館の前にあるが日曜日だったため訪問しなかった。難しい箇所はなく楽に回れるが竜田駅に止まる電車が1時間に1本なので時間に注意する必要がある。なお、駅前にはタクシーが待っていた。

(榊葉町公民館 ☎0240-25-2236)

□1995年6月12日(月)  
福島県 ~富田 95-17~  
「ハートランド  
はらまち」

A. 高倉ダムコース  
B. 前田溜池コース

[距離] A. 11 km  
B. 10 km  
[ポスト数] A. 9本  
B. 9本  
PC 0-Map

ここも大高竜亮氏からポスト記入済みのマップとレポートをいただいていた。JR常磐線「原ノ町」駅下車。駅前から福島交通バス「高倉」行きで終点で下車するが、平日は7:31と13:01、土曜日は7:31と11:01、日曜日はない。タクシーの方が便利である。「ハートランドはらまち」の「あやめ園」が昨日から再開した。園内へ入り少し上るとMMがあり明瞭。「管理室」の方にマップをお願いしたら、書類の中にあつたとのこと。3部いただいた。「管理室」(☎0244-22-5861 6月から11月まで)が無人的場合は近くの「農業体験実習室」(☎0244-23-0811 12月から5月まで)に問い合わせしてくれとのこと。なお、スポーツセンターにある下記にもあるかもしれない。2コースを一筆書きで回ることとした。A④(B③)は「高倉山文珠堂」に、また、A③は「高の倉ダム」堰堤にある。A③からA②へ下りる小径が不明瞭だが何とかなる。このほかは舗装道路で歩きやすい。

(原町市教育委員会体育振興課

☎0244-22-8951)

□1995年8月19日(土)  
福井県 ~富田 95-18~  
「越前大仏」

[距離] 6 km  
[ポスト数] 7本 PC 0-Map

JR北陸本線「福井」駅から京福電鉄で「勝山」駅下車。マップとMMはスタートにはなく「勝山市教育委員会体育課」(勝山市役所となりの教育福祉会館2階)にある。駅前に案内図があり徒歩10分くらい。ここから東南へ15分くらい歩くと壮大な「越前大仏」前に「地場産業振興センター」がありスタートとなっているが、ここにはPC関連のものは何もない。①から大師山西肩の峠へ急登する。②は峠から西へかなり入った所にある。③へ降りる入り口は分かりやすいがポストは見付からなかった。右へ降りる小径が極端に悪くて踏み込めない。④へ降りる小道はすべりやすく要注意。教委の担当者のお話では、このコースは道の悪い箇所があるので、近くの「長山公園」をスタートとする10ポストのショートコースを別に作り、公認申請中とのことであった。そのコースのポスト記入済みマップをわけていただいた。

(勝山市教育委員会体育課

☎0779-88-1111)

□1995年8月21日(月)  
石川県 ~富田 95-20~  
\*バスの関係で95-19は次号に掲載  
「辰口(虚空蔵山)」

[距離] 6 km  
[ポスト数] 10本 PC 0-Map

JR北陸本線「小松」駅下車。北陸鉄道バス「辰口ハイタウン」行き(8:15, 10:20, 12:50...)で「辰口(たのけ)丘陵公園口」で下車し同公園(12月29日から1月1日まで休園)へ入ると管理事務所(9時開所)にマップとMMがある。バスが不便なのでタクシーを使うと15分¥3,300かかる。ここも1995年5月にポスト位置が一部変わった。①②③は園内にある。④は外へ出る。⑤はキャンプ場。⑥からは新道ができていてマップ中央の道路につながっているから⑦へ入り易い。MM完備でやさしく、コースに何の問題もない。

(辰口丘陵公園管理事務所

☎0761-51-4902)

休ヶー :

〒225 横浜市青葉区あざみ野

1-12-13-303

富田 徹

□1995年6月21日(水)

埼玉県 木佐木 95-9 ~  
「**神川**」(B)[距離] 8 km  
[ポスト数] 9本 PC 0-Map

JR高崎線「本庄」または八高線「丹荘」駅下車。「鬼石」行きバスで「池田」下車、徒歩20分で「神川青年の家」に着く。マップとMMは「神川青年の家」にある。休館日は月曜と祝日。MM掲示板は50m下の広場の隅にあるが、Naが消えていた。マップは1:15000で、調査は平成4年。ポストは標準の大きさと新品に近く完備。Aコースと2本を共有している。公認のA・B両コースの他に野外活動用のポストがある。コースは山60%、田園30%、舗装道路10%で、標高差は80m。特に難解なポストはない。②は「大光普照寺」の中ではないので注意。寺の右前に「金鑽(ぬき)神社」の大きな鳥居が見える。この両社寺の広さと壮麗さには驚かされた。コースの安全を祈願して神社の裏山へ登る。100基ほどある句碑を左右に見ながら、300m強登ると特別天然記念物「鏡岩」に出る。③は「鏡岩」からさらに80m以上登った所にある。⑦から300mで畑に出るが、その途中の100mほどは雑草が深く小径が不明に近くなり、コンパスワークを要求される。⑨は「若宮大明神」の境内だが、裏から行くとな家の前の菜園を通ることになり気が引けるので、小川ぞいの道を行き南からアタックする方がよい。このコースとの最初の出会いには昭和51年で、今回が4回目となった。  
(神川青年の家 ☎0495-77-3442)

□1995年6月29日(木)

長野県 木佐木 95-10 ~  
「**白樺高原**」[距離] 10 km  
[ポスト数] 12本 PC 0-Map

JR信越本線「小諸」駅からバス(白樺高原線)に乗り「蓼科牧場」駅下車。マップはバス停近くの「総合観光センター」(年中無休)にある。ただし、⑨~⑫はスキーのゲレンデ内にあるので、冬はポストが雪に埋没してPCの用をなさない。従って、11月下旬→4月上旬は「観光センター」に電話してから行くこと。MM掲示板は「観光センター」から南東へ50m離れた牧場の中にある。中のマスターは鮮明。現在、「観光センター」の周辺は大規模な土木工事中であ

る。この工事が完了すれば、MM掲示板は元の位置(観光センター前のロータリー)に戻されるのであろう。マップは1:10000で読み易い。調査は平成4年。ポストは標準の大きさと新品に近い。コースは、山85%、スキーのゲレンデ15%で標高差は300m。疎林とクマ笹が多いので数か所で大幅なショートカットができる。②までは優雅な「女神湖」を見下ろし、燃えるような「レンゲツツジ」を左右に身ながら舗装道路を歩く。①の手前に旧⑧があった大岩(標高1650m)が道路の真ん中にある。「蓼仙の滝」から⑤までの長い急登はこのコースのハイライトである。⑥⑦は時間の都合でパスした。⑨→⑫は広いスキーゲレンデの左右に交互にある。このコースとの最初の出会いは昭和63年。当時は1:25000の古典マップで、「女神湖」を大きく周回するコースであったが、コースもマップも面目を一新して「女神湖」の東方を一周する形になり、登降も古いコースより大きくなっている。楽しみにしていた「ニッコウキスゲ」はまだ蕾であった。アクセスは「観光センター」に電話すれば親切に教えてくれる。私の推薦コースの一つに入れたい。  
(総合観光センター ☎0267-55-6201)

□1995年7月10日(月)

埼玉県 木佐木 95-18 ~  
「**森林公園**」(A)[距離] 10 km  
[ポスト数] 10本 PC 0-Map

東武東上線「森林公園」駅下車。駅前から「森林公園南口」行きのバスに乗り「南口」下車。他にも公園を通るバスがあり、公園入口も4か所あるので必ず「南口」で下車すること。マップは南口の入場券売り場にある。休園は年末年始と月曜日。月曜日が祝日の時は翌日が休園。プールがある期間は月曜も開園。MM掲示板は入口近くの広場の隅にあり明瞭。コースはA・Bの2つ。マップは1:10000で、調査は平成2年。コースは遊歩道100%で、標高差は20m。ポストは標準の大きさと新品同様。マップには30個の○印のみが印刷済みで、A・Bとも昭和58年に歩いた。当時のマップは1:15000で、やや読み難い所があったが、今のマップは1:10000のうえに通行可能度まで入れてあるので、実に読み易い。旧マップと新マップとの○印の位置は30個とも同じだが、回るポストが入れ替えてあるので、すでに回った人も興味をもって回れる。レストラン・売店・

□1995年9月17日(日)

岐阜県  
「**根の上高原**」[距離] 10 km  
[ポスト数] 10本 0-Map

マップ(1:15000)は保古の湖ユースホテルで購入(☎200円)、MMも同所にある。スタート地点に向かう。スタート地点は根の上湖畔の「みやげ・たかみ売店」前の芝生園にあり、MMも判読可能。台風12号の影響で風がかなり強い。雨もバラバラ。天気予報によると午後から天候は回復に向かうということなので、運を天にまかせスタート。①②③は道なりに順調に廻ることができる。④には途中、尾根沿いの小道を進まなければならぬが、分岐付近に笹が茂っており分りづらい。地形をよく確認し笹の中へ進む。④⑤も道なり。⑥へは、小道から一気に30m登らなければならない(かなり疲れる)。そして、⑥からまた一気に20m登り保古山(標高969m)の頂上に出る。頂上では陸上自衛隊のトラックが止まっており、アンテナを設置し無線交信を行っていた(まさか台風の中を山に登ってくるとはという感じで隊員の人もびっくりした様子)。頂上周辺を見回すとテレビ、ラジオ、電話などの中継局が10余り(マップにも建物、サク記号あり)。保古山を下り、道なりに⑦⑧⑨⑩⑪⑫ポストを通過しゴール(所要:2時間17分)。雨、風ともやんでいた。途中、キャンプ場の中や台風の影響で水の増えた箇所を通らなければならなかったが、保古山の登り下りと除けば起伏差は少なく、根の上湖と保古の湖の周辺をぐるりと一周するコース。ポストも新しく設置されていた。  
(保古の湖ユースホテル ☎0573-65-3534)

バイク :  
〒509-01  
岐阜県各務原市鷺沼朝日町 5-248  
水野 博司

ノイレ・広場・サイクリングロードなどが完備しているので、遊び心で回るのも一興であろう。  
(森林公園管理センター ☎0493-56-2225)

バイク :  
〒185 東京都国分寺市泉町 3-5-6-104  
木佐木輝雄



## O-JAPAN クラブ購読(登録)一覽 (I)

平成7年8月現在

正式クラブ名称(略称クラブ名, アルファベット名)	代表者名
事務局(住所, 氏名, 電話)	
創立年(和暦)月	会員数(合計, 男, 女)
	機関紙(有無, 名称, 回数)

〔城県〕

青葉会 萩原 淳  
〒285 千葉県佐倉市宮ノ台二丁目4-8 萩原 淳 ☎043-489-8586  
会員数(約110名, 男約106名, 女4名) 機関紙(無)

☆東北大OLCのOG・OB会です。現役の後輩諸君に負けないように日々頑張っている(人もいる)。まだ組織としては確立していない点も多いが、行く行くは公益法人を目指している。会員の皆様、頑張りましょう。

台オリエンテーリングクラブ(仙台OLC, 記入丸) 菅原 輝男  
〒982 仙台市太白区八木山南四丁目2-4 三上 千香子 ☎022-245-8016  
1975年(昭和50年)12月 会員数(21名, 男17名, 女4名) 機関紙(「OL-ゆたい」 年4回)  
☆H7. 11. 5, 第3回東北選手権大会兼仙台OLC20周年大会を開催します。

東北大学学友会オリエンテーリング部(東北大OLC) 山口 佳吾  
〒981 仙台市青葉区水の森二丁目13-31 コーポささげん 202 山口 佳吾 ☎022-273-4540  
1975年(昭和50年) 会員数(72名, 男67名, 女5名) 機関紙(「たっちゃん」 年10回)  
☆今年は2年生の女の子2人が Jr. Weimの日本代表として海外遠征しました。ま、結果は?ということで。日頃、かなりの部員はトレーニングに励んでいます。現役学生+OBの松澤さんで出場した富士登山駅伝も好成績を収めました。今年のインカレの主役が自分たちであることは間違いないでしょう。そうそう、毎年秋に開催されている東北大会もお忘れなく。すばらしいトレインがみなさんをお待ちしております。

宮城学院女子大学短期大学オリエンテーリング部(宮城学院OLC) 金沢 愛  
〒981 仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1-1 宮城学院女子大学オリエンテーリング部 ☎022-279-1311呼  
会員数(22名, 男0名, 女22名) 機関紙(「ゆたかに」 年10回)  
☆こんにちは、仙台では「宮学」と呼ばれていますが、OL界ではMGと呼ばれています。宮城学院のオリエンテーリング部です。ふだんは東北大オリエンテーリング部のみなさんと一緒に練習をしたり、大会に出たりしています。今年はその東北大会の前日に第1回MG-CUPを開くことになり、部員一同わくわく、どきどきしながら準備をしています。ぜひ遊びに来てください。また、大会会場で見かけたら声をかけてください。よろしくお願ひします。

〔城県〕

茨城大学オリエンテーリング部(茨城大OLD) 綿引 修一  
〒310 水戸市文京二丁目1-1 茨城大学内 茨城大学OL部  
1991年(平成3年)5月 会員数(25名, 男17名, 女8名) 機関紙(「団報OLD」 年約10回)  
☆「OLD is new」ということで、発足5年目の若いクラブです。大会・練習会等の参加、O-MAP作製など、オリエンテーリングに関する幅広い活動を行なっています。機関紙「団報OLD」では外部の方々からの投稿をお待ちしておりますので下記までお気軽にお寄せ下さい。  
〒310 水戸市文京2-1-1 茨城大学学生部 気付 茨城大学オリエンテーリング部 出版部 宛

茨城FOXテーリング倶楽部(茨城ARDF) 池田 敏雄  
〒310 水戸市柳町一丁目4-27 MSS内 茨城FOXテーリング倶楽部 ☎0292-31-8302  
1990年(平成2年)2月 会員数(25名, 男20名, 女5名) 機関紙(「IFTCニュース」 年6回)  
☆フォックステーリング(日本名)、正式にはARDF競技。ARDF(Amateur Radio Direction Finding)とは、隠されたアマチュア無線の電波の発信源(ポト)を時間内に探し当てる競技で、ポストに至るコースは自由であるが指定されたポスト以外を捜しても得点にならない。年齢男女別クラス分けがある。練習会は翌月ごとに、主にOLのゲレンデを利用している。世界選手権日本代表者、全国大会入賞者などを抱え、A級審判の資格者もそろえて、貴方の参加をお待ちしています。

## 日立工機オリエンテーリング部 (日立工機OLK, KOKI)

鈴木 俊晴

〒312 ひたちなか市勝田泉町15-16 渡辺 啓司 ☎029-274-3660

1985年(昭和60年) 3月 会員数(19名, 男18名, 女1名) 機関紙(無)

☆私たちのクラブは、会社の体育部会の一つとして活動しています。そのため、20代～50代まで幅広い年齢層の部員が一緒に活動しています。そして、ここ数年やる気のある新人も入部し、活動は盛り上がっているところですが、ただ、女性の入部希望者が少ないのは残念です。活動内容は、クラブとして年10回程度各地の大会に遠征します。その他、2か月に1回は、実戦トレーニングとしてクラブ内でゲレンデに出て練習会を行っており、週1回皆でランニングを行なっています。また、飲み会も定期的に行ないクラブ内の交流を図っています。今後は、他のクラブとの合同練習なども積極的に行なっていきたいと思っております。

## 《群馬県》

## 地図と森の会 (地図と森の会)

藤生 晃三

〒376 桐生市川内町2-286 藤生 晃三 ☎0277-65-9132

1994年(平成6年) 5月 会員数(5名, 男4名, 女1名) 機関紙(「O-紀行」年4回)

☆桐生市で2つ目のオリエンテーリングクラブ。地域を越えてだれでも入会できます。日本で一番小さなクラブですが、頑張っています。[実績]平成6年8月 第1回夏休み親子OL教室 10月 第1回の小さなOL大会 [予定]平成7年10月 第2回森の小さなOL大会 [PR]大会参加の合間を見て地図作りもしています。求む協力者。求む若い力。

## 《埼玉県》

## 上尾市オリエンテーリング連盟 (上尾OLクラブ)

荻島 正一

〒362 上尾市大字上828-14 高村 卓方 上尾市オリエンテーリング連盟 ☎048-776-8439

1976年(昭和51年) 4月 会員数(39名, 男29名, 女10名) 機関紙(「上尾OL通信」年8～12回)

☆今、若い方が元気に走り回っている上昇中のクラブです。上尾のナイトOL、ナイトOLの上尾と、夜の大会にもガンバッテ活動しています。

## 入間市オリエンテーリングクラブ (入間市OLC, IOLC)

田中 博

〒359 所沢市上新井932-15 荒井 晴夫 ☎0429-26-9782

1976年(昭和51年) 4月 会員数(41名, 男34名, 女7名) 機関紙(「茶の里通信」年12回)

☆入間市体協正式加盟団体として、①PCコース(元加治、仏子)の管理 ②PC巡り(年2回以上、埼玉県全PC走破) ③入間市OLカーニバル12回開催(出場者約500人) ④大会出場…全日本大会26名エントリーを始め、各大会平均20名出場 ⑤H21E・D21Eを始め、H70～D19・20まで幅広い選手層 ⑥クラブ主催練習会 年2回以上 ⑦クラブ広報誌定期刊行 以上の通り幅広い活動の埼玉県有数の活火山クラブです。入間市周辺のOL仲間の方、お電話ください。

## 《千葉県》

## WINDS(ウインド)

御手洗 昌寛

〒410-11 静岡県裾野市深良3653-20 宇津 明範 ☎0559-97-7244

1985年(昭和60年) 6月 会員数(35名, 男27名, 女8名) 機関紙(「The WINDS」年4～5回)

☆千葉大OLCのOB会は“鳩の会”である。そのOB会の有志で組織しているOLクラブが“WINDS”である。今年、満10周年を迎えた。千葉大OLCは今年20周年を迎え、11月に2日間大会を開催する。このイベントにもOBとして協力している。皆様の参加をお待ちしています。

## 《東京都》

## 麻布学園オリエンテーリング部 (麻布学園OLC, AOLC)

青島 健太

〒105 東京都港区元麻布二丁目3-29 麻布学園オリエンテーリング部 ☎03-3446-6541

会員数(50名, 男50名, 女0名) 機関紙(無)

☆我が部は一言で言ってもいい部です。昨年度IHは惜しくも2位でしたが、部員約50名という選手層の厚さにより後輩に良い選手が揃い、来年、再来年といけそうな感じです。部内は先輩と後輩の上下の仲がよく、at homeな雰囲気よくまとまっております。その反面、仲良しクラブ的なものが見られ、やる気の面で少し問題があります。普段の練習は1～8kmのコースを走り、バレーやサッカーをやるといったものです。はっきり言ってあまり走りません。そして部員のOL離れといった深刻な問題も生まれ、実質部員数が約20名ほどと苦しい状況です。暗くなりましたが、最後にひとつ、うちの部はとってもいい部です。

オールTBSオリエンテーリングクラブ (オールTBS) 大川 光行  
 〒107-06 東京都港区赤坂五丁目3-6 東京放送内 山崎英一郎気付 オールTBSオリエンテーリングクラブ ☎03-5571-3705  
 1987年(昭和62年) 3月 会員数(37名, 男24名, 女13名) 機関紙(無)

都立久留米高校オリエンテーリング同好会 (久留米高OLC, KHOL) 飯山 高明  
 〒203 東久留米市幸町5-8-46 ☎0424-71-2510  
 1989年(平成1年) 4月 会員数(0名, 男0名, 女0名) 機関紙(無) 二

☆6年前に創立, 4年間活動。昨年以来, 部員ゼロ。目下休眠中。

多摩オリエンテーリングクラブ (多摩OL, TAMA) 西岡 道夫  
 〒187 小平市喜平町三丁目2-8-408 西岡 道夫方 ☎0423-24-6644  
 1970年(昭和45年) 4月 会員数(57名, 男52名, 女5名) 機関紙(「多摩OLニューズ」随時, 他に「多摩カレッジ」)

☆多摩OLは, 地域クラブとして活動を始めてから今年で25年目を迎えました。創立以来その基本理念は変わっておりません。それは, クラブ員はそれぞれがクラブのために何が出来るかを考え, そして「できる人が・できる時に・できることを」, これが "ONE FOR ALL · ALL FOR ONE" という基本理念です。この理念を基に, 1. 校エンテーリングクラブとして地域に貢献しよう。2. 知恵と総意で独創的なクラブ創りを目指そう。3. いつでも, どんな事にでも, 恐れることなく勇気を出してチャレンジしよう。こんなクラブです。どんなたでも, そんなクラブにチャレンジしてみませんか!!

中央大学学友会体育同好会連盟オリエンテーリング同好会 (中央大OLC) 杉本 博雄  
 〒192-03 八王子市東中野742-1 中央大学学友会事務局 ☎0426-74-3486  
 1973年(昭和48年) 会員数(57名, 男50名, 女7名) 機関紙(「DNF」 年6回)

☆女性部員急募!!

東京オリエンテーリングクラブ (東京OLクラブ) 中山 孝  
 〒177 東京都練馬区関町北三丁目38-3 斎藤 英津子気付 ☎03-3929-1715  
 1972年(昭和47年) 10月 会員数(75名, 男55名, 女20名) 機関紙(「東京OLクラブ」年10回)

東京工業大学オリエンテーリング部 (東工大OLT, OLT) 石原 久也  
 〒194 町田市成瀬が丘三丁目26-4 石原 久也 ☎0427-96-3087  
 1980年(昭和55年) 4月 会員数(65名, 男62名, 女3名) 機関紙(「WING」 年10回)

☆私たちのクラブは, ここ数年でインカレ団体戦6位入賞, 大会の開催など, チーム全体としての活動において成功をおさめ, 新しい段階に入りつつあるものと思われま。それには, 大ざっぱに言えば部員のやる気, そして新しい世界へ出てゆく私たちを他大学や地域クラブの方々があたたかく受け入れてくれたということが大きかったと思います。東工大OLTはまだ若いチームです。みなさんからまだまだ多くを学ぶ必要があります。なにかと面倒をおかけすることもあるかと思いますが, その時はどうぞよろしくお願いいたします。

東京大学オリエンテーリングクラブ (東大OLK, OLK) 大久保 英明  
 〒153 東京都目黒区駒場三丁目8-1 東京大学学生会館内  
 1978年(昭和53年) 12月 会員数(169名, 男名, 女名) 機関紙(「Rough & Fine」 年20回)

☆東京大, ICU, お茶大, 実践女子大, 津田塾大, 東京女子大の6大学から成り, 活動しています。毎年6月には大会を開催し, 夏には夏場所と称し連日練習会を行ない技術の厚情に努めています。合宿も夏, 秋, 春と年3回行なっています。昨年度のインカレでは, 津田塾大優勝, 東大4位, 東女6位など好成績を挙げました。今年ももちろん狙っていきます。これからもOLKをどうぞよろしく。

桐朋学園中学・高校オリエンテーリング・クラブ (桐朋学園IK, IK) 松田 諭  
 〒197 福生市熊川1636-13 松田 諭方 ☎0425-53-3117  
 1980年(昭和55年) 3月 会員数(13名, 男13名, 女0名) 機関紙(無)

☆94年度インターハイ優勝校(ケガ)。関東高連加盟校の中でも屈指のOLタコクラブである。OBには現全日本 Champの鹿島田浩二氏, 元日本代表の国沢五月氏, 現慶応大オフィシャルの飯塚靖氏などがいる。中高一貫なので, 下は中1から上は高2まで, 和気あいあいと活動している。IH優勝メンバーを核とする現高3はひそかに活動しているらしい(by高3)。



## 《神奈川県》

大井電気OLC (大井電気OLC) 鈴木 祥夫  
〒222 横浜市港北区菊名七丁目3-16 大井電気(株)内 西沢 久夫 気付 ☎045-433-1352  
1976年(昭和51年) 4月 会員数(10名, 男10名, 女0名) 機関紙(無)

川和高校地理・オリエンテーリング部 (川和高校地理部) 知念 毅  
〒226 横浜市緑区長津田町3000-16 知念 毅 ☎045-981-9368  
1973年(昭和48年) 会員数(8名, 男8名, 女0名) 機関紙(無)

☆部員は少ないし、共学なのに女子はいないけど、特徴といったところもないです。まあ、ヨロシクお願いします。

港南オリエンテーリングクラブ (港南OLC) 三好 良子  
〒234 横浜市港南区笹下四丁目8-1-404 高柳 宣幸 ☎045-841-1022  
1982年(昭和57年) 3月 会員数(19名, 男9名, 女10名) 機関紙(「港南OLC ニュース」年数回)

鶴見オリエンテーリングクラブ (OC鶴見) 久保 保二  
〒230 横浜市鶴見区岸谷二丁目3-6 水戸 誠 ☎045-581-3925  
1978年(昭和53年) 10月 会員数(20名, 男13名, 女7名) 機関紙(「鶴見OLクラブ 便り」年4~6回)

横浜オリエンテーリングクラブ (横浜OLクラブ, YOLC) 若梅 友行  
〒246 横浜市瀬谷区三ツ境108-2 篠原 孝太郎 ☎045-391-2686  
会員数(38名, 男33名, 女5名) 機関紙(「OL」年4回)

☆当クラブは、会員が自然に親しみながら健全な心身の育成をはかり、会員相互の親睦を深めるとともに、オリエンテーリング運動の振興発展に寄与する目的で、次の活動を行なっています。1. 練習会の実施 2. クラブ大会の計画実施 3. 会報の発行 4. OL合宿 会員には20代、30代と若い人達が多く入会しています。今後さらに活動を活発にし、入会してメリットのあるクラブとしたいと思います。 祥夫

## 《新潟県》

新潟大学オリエンテーリング部 (新大OC) 丸山 繁 仁之  
〒950-21 新潟市五十嵐1の町7790 阿部 純 ☎025-261-0944  
会員数(72名, 男55名, 女17名) 機関紙(「給水ポスト」年約5回)

☆本当に競技としてオリエンテーリングをしたい人はもちろん、その他あらゆる目的で名を連ねている人達で構成されています。近年着々と実力をつけてきており、今後が楽しみなクラブです。

## 《福井県》

サンワコン オリエンテーリングクラブ (サンワコンOLC, SCOC) 林 博  
〒910 福井市花堂北一丁目7-25 (株)サンワコン 内 ☎0776-36-2790  
1973年(昭和48年) 4月 会員数(21名, 男16名, 女5名) 機関紙(発行予定)

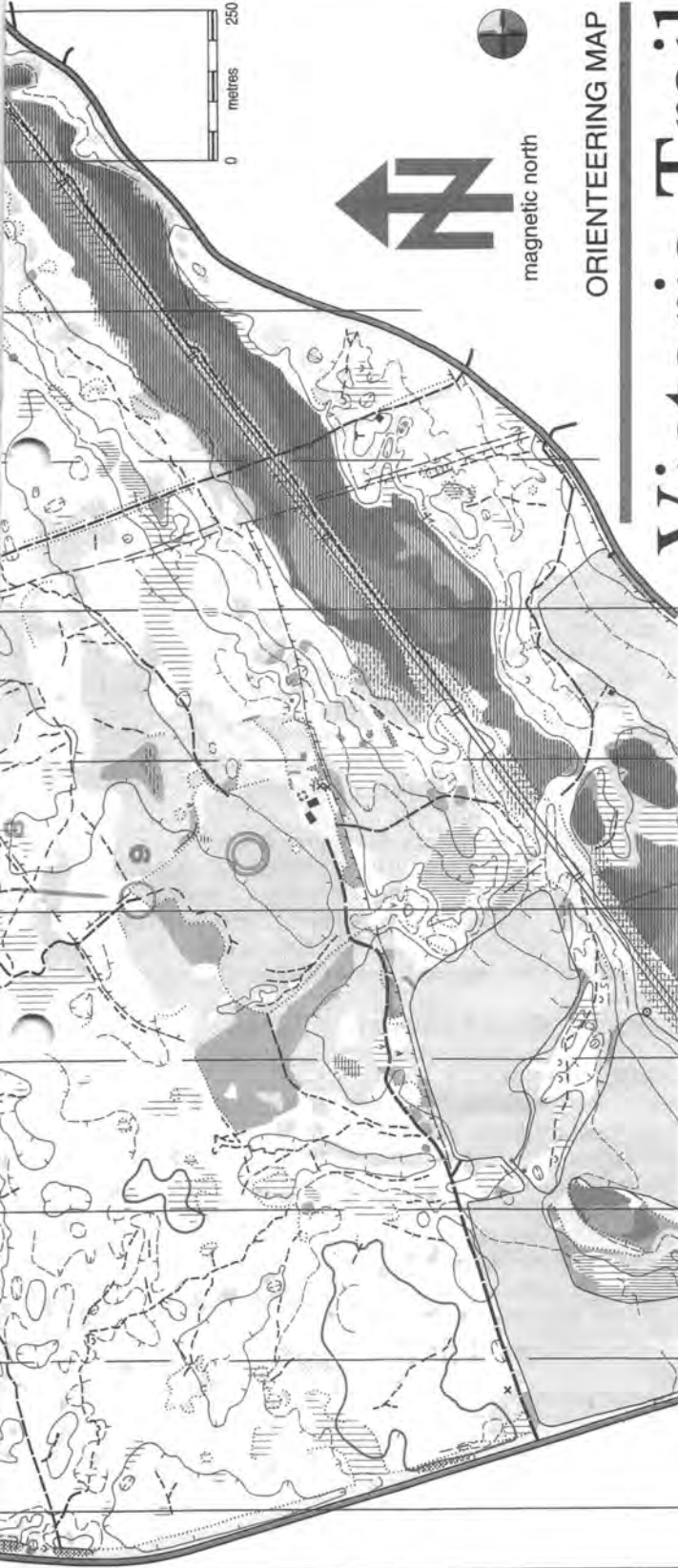
☆都市計画、区画整理、測量等の総合コンサルタントである(株)サンワコンの企業クラブである。活動としては福井市の市民春季、体育、スポーツ・レクリエーション、秋季の4大会を運営し、文殊山パーマメント、足羽山ファミリーコースの2コースの管理を行なっている。また、福井県OL協会および福井市OL協会の事務局を置いている。

## 《山梨県》

山梨中央オリエンテーリングクラブ (山梨中央OLC, YCOL) 一木 昭男  
〒400 甲府市東光寺三丁目2-22 清水 義博 ☎0552-32-5210  
1975年(昭和50年) 11月 会員数(12名, 男10名, 女2名) 機関紙(無)

## 《静岡県》

湖西オリエンテーリング同好会 (湖西OL同好会) 尾崎 和希  
〒431-04 湖西市太田387-4 山本 典男 ☎053-578-0123  
1979年(昭和54年) 7月 会員数(19名, 男18名, 女1名) 機関紙(無)

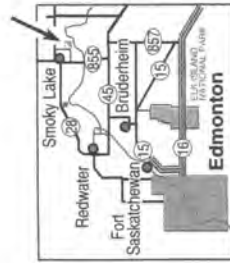


ORIENTEERING MAP

# Victoria Trail

scale 1:10000  
contours 5m

Aerial photography: 1960 Alberta Orienteering Association  
 Photogrammetry: Olaf Helgesen, Norway, 1991  
 Fieldwork: Bryan Chubb, 1994-95  
 Cartography: Bryan Chubb, 1995 (OCAD)  
 Produced by the Alberta Orienteering Association  
 Portions of this mapped area are private land. Permission must be obtained to gain access for orienteering.



	Contour, formline		Road
	Index contour		Vehicle track
	Knoll		Large path or old vehicle track
	Small knoll		Small path or extraction track
	Depression		Indistinct path or track
	Small depression		Powerline, pole
	Pit, dangerous pit		Major powerline, pylon
	Erosion gully, dry ditch		Fence
	Earth bank		Fence in ruin
	Earth or bush wall		Building
	Open sandy ground		Ruin
	Pond		Tower
	Stream		Single tree
	Beaverdam		Mammade feature
	Narrow marsh		Pipeline
			Out of bounds

	Open marsh, wooded marsh		Forest
	Indistinct marsh		Forest - slow run
	Deep water marsh		Undergrowth - slow run
	Open land		Forest - difficult to run
	Open with scattered trees		Undergrowth - difficult to run
	Rough open land		Vegetation - light
	Rough open with scattered trees		Very distinct forest edge
	Forest		Distinct vegetation change

## — 投稿 —

長野県協会2日間大会  
に参加して

三河O.L.C 安齋 秀樹

9月9・10日に駒ヶ根高原で行なわれた長野県協会主催の2日間大会に参加しました。1日目のクラブカップリレーには、私は初めて地域クラブ所属で出走、いろいろな年代の人と走って、学生時代のリレーとは一味違った楽しさを感じました。

満足してこの日の宿(紅葉園)に向かい、焼き肉パーティー、WOC報告会と有意義な時間を過ごせました。翌朝、5:30ごろ起きて散歩しようとした時、大会実行委員長の元木悟さんと紅葉園の管理人さんに、信じられないような話を聞きました。内容は次のとおりです。

○寝具 30余組が無断で持ち出されたこと。  
○夜中に管理人室に忍び込み、寝ていた管理人さんを踏みつけた上、冷蔵庫から勝手にジュースを持ち出した人がいること。

前者については補足が必要です。紅葉園は10棟ほどのロッジと本館から成る民宿です。2日間大会の宿として元木さんが斡旋していましたが、初めは一般の客に迷惑にならないように、ロッジだけ借り切って受けつけていたそうです。ところが、定員をオーバーしても電話の申込みや問合わせが殺到したため、管理人さんと交渉して、事実上貸し切りの状態にでもらえたそうです。管理人さんの御厚意で、寝具を使わなければ格安で泊めてもらえることになっていました。

後者についてはどう解釈したらいいのか私には分かりません。

最近、2日間大会や合宿形式の大会が目につきますが、こういう事件があると、運営者が宿を斡旋するのはどうかと思います。私がO-JAPANに記事を載せたくらいで、オリエンティアのマナーが向上するとは思えません。大会運営者の方への被害を未然に防ぐことになれば幸いです。

## — お願い —

## 広告掲載のお願い

本誌通巻150号、新年度よりロゴマーク、誌面レイアウト等を一新して発行を続けて参りたいと存じます。そのため予算拡充のため、広告の掲載を募集いたします。愛読者のみなさまの企業・団体等へのご紹介をよろしくお願い申し上げます。「掲載のお願い」の文書を用意いたしますので、詳しいお問合せなど下記までご連絡いただければ幸いです。年間12か月掲載料金は、表紙裏 24万円、裏表紙裏 18万円、裏表紙=奥付を除く約4/5ページ 36万円、一般ページ=1/8ページ 3万6千円、1/4ページ 6万円、半ページ 12万円となります。 発行人・田口 昭子

## — お知らせ —

## O-JAPAN

## 新ロゴマーク 募集のお知らせ

編集部

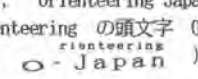
日本で唯一のオリエンテリング情報誌「O-JAPAN」も、この9月で発行来12年が経過し、明年1月号をもって通巻150号となります。

ここ数年の間毎月、特に若い読者の皆様向けの記事を書き版下まで作ってくださる桐田氏をはじめ多くの方々のご強力を得ながら、ここまで発行を続けることができたことに深く感謝し、同時に、長年ご愛読をいただいている多数のオリエンティアの皆様に対しましても厚く御礼申し上げます。

さて、この150号を機に、発刊以来長い間親しんでいた「O-JAPAN」のロゴマークを改め、明年より心機一転してより良い誌面づくりに努力して参りたいと存じます。そのためには「オリエンティアのための、オリエンティアによる」をスローにし、皆様のより一層の誌面へのご参加を期待いたしたく考えております。つきましては、その新しいロゴマークの考案を広く一般のオリエンティアの皆様からいただくこととし、次の要領で募集いたしますので、奮ってご応募くださるようお願い申し上げます。

## ■ロゴマークに必要な文字

O-JAPAN, Orienteering Japan

( 'O' と 'Orienteering' の頭文字 O, JAPAN と Japan を共通にしても良い。例:  )

■コントロール・マーカーやコンパスの絵/図、イラスト等の組み合わせ使用は自由。但し、一色刷りのため墨ベタまたは網ガケを組み合わせてください。

■大きさは、径3cm:31.9cm程度の割合(従って横長)で作図してください。なお、最小31.4cm程に縮小します(封筒、レターヘッド等)ので、あまり精細・複雑な絵・図、イラスト等は不適當=縮小して印刷した場合ははっきりしなくなる=となりますのでご考慮願います。

■用紙・筆記具は自由です。どなたでもお気軽に! スケッチ程度でも結構です。

■応募は封書・ハガキ、いずれも可。

■宛て先: 〒234 横浜市港南区日野南7-9-5 O-JAPAN 宛

■応募の締切: 11月30日(木)

採用させていただいた方には記念品を差し上げます。

なお、採用選考はここ数年O-JAPANの発行にご協力をお願いしている以下の各氏の採点により決定させていただきます(敬称略)。愛場雅隆、池谷悦朗、岩出雅人、桐田幸宏、佐藤征男、富田徹、船橋昭一、三好良子、村越真、元木悟、若松友行<sup>※</sup>。なお、IOF 会長・事務局長、友誌 "Australian Orienteer" "Compass Sport" "Orienteering North-America" "Orienteering World" 誌の各編集者にもご意見を伺う予定です。

みなさまのご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## — 編集部日誌 —

◆8月27・28日: 那須の分室で30年ぶりの旧友と過ごす。28日は恒例の茶臼岳へ今年初の友と。お互い定年後の話。彼は森林インストラクターを目指す。私は本誌150~200で頭いっぱい。◆9月3・4日: 残念ながら1か月遅れの8月号をフィニッシュ。◆8: 翌々日の10日と23日に行なわれる横浜・有隣堂カルチャーセンターの「地図と親しむ講習会のための打合せを、本誌の財政状態を心配していただいて、「一緒に講師を」との話をもってきていただいた船橋昭一氏と、夜・東京駅で。受講生少ないながら両日無終了。◆15日: 自治会の敬老祝賀会、98才のおばあさんが日頃続けている健康体操などお手伝いをしながら勉強させていただいた。◆9月号は途中ワープロの破損がありながらも、どうやら月内に印刷・発送完了。10月に入る。 <流人>

## O-JAPAN 発行人/田口 昭子

〒234 横浜市港南区日野南7-9-5

TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500

分室=Annex TEL. 0287-77-1977

NIFTY-Serve ID VYE01053

郵便振替口座: (番号) 00270-9-46870 (加入者名) O-JAPAN 編集部

銀行口座: さくら銀行・港南台支店(普通預金) 番号・5380802 O-JAPAN編集部 代表者・田口 肇

## : 購読料

: '95.10月~'96.3月

: '95.10月~'97.3月

: (高校生以下) 95年度後半分

: 1部あたり頒布価格

: 1部あたり頒布価格

: 1部あたり頒布価格

## : 編集責任者/田口 肇

: Chief Editor:

: Hajime Taguchi

: Editorial Address:

: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

: Yokohama, 233 Japan

: E-mail Address: hataguc@ibm.net



今月号に印刷ミスがありました。  
5ページ「写真①」が9ページ左端。  
9ページ左端の写真(鈴木康史氏)  
が5ページのものです。お詫いし  
て訂正いたします。 編集部

